

企業主導型保育園に自治体が指導・監督できる体制を



須磨区のある保育園で、8月末に職員全員が退職し、利用者も9割が退園するという事態になりました。休園せずに現在も運営されていますが、高橋は8月末に利用者の方から相談を受けました。ベテラン保育士の毎月の給与に加算して支払われる月4万円の「処遇改善加算」が支払われていないなど、法人の運営に問題があり、園長も含めた職員との間に信頼関係を築けなかったことが要因です。

さらに「企業主導型保育園」という制度が問題です。地方自治体に法人への監督権限がなく、東京にある「児童育成協会」という内閣府の外郭団体が監督することになっています。しかし19年4月に開設されたこの保育園では、一度も実地調査が行われませんでした。その結果、児童育成協会の「指導」は形だけのものとなり、利用者は閉園の危機にさらされたのです。今後高橋はこの問題を、国会議員とも連携して問題提起していきます。

議員報酬を削減し コロナ対策の財源に

6月に議員提案した報酬2割カット条例案は、残念ながら自民・公明・立憲会派の反対で不採択となりました。しかし高橋はあきらめません。コロナ対策の財源を作るため、報酬と歳費(議会経費)の削減を求めます。さらに費用弁償を廃止して実費支給とすることも求めます。

費用弁償とは?

本会議や委員会に出席した日数に3000円~5000円をかけた金額が、毎月支給されます。通勤手当の代わりになる制度ですが、垂水区選出議員は1日5000円です。高橋は電車通勤ですので往復440円で十分なのに10倍以上の支給となります。こんな報酬は受け取れません。法務局に供託しており、いずれは国庫に没収されます。

活動日誌 (2020年7月~2020年9月・抄)

- 7/12 霞ヶ丘まちづくり推進会総会に参加
- 7/19 市政報告会(オンライン)
- 7/20 市民と野党の共同街頭宣伝(三宮センター街)に参加
- 7/31 市政相談所1日相談
- 8/07 兵庫土建労組垂水支部幹事会に参加
- 8/21 神戸市国民健康保険協議会を傍聴
- 8/23 須磨区の保育園関係者ヒアリング
- 8/30 市政報告会(オンライン)
- 9/04 西神戸医療センター見学(写真→)
- 9/10 精神保健福祉審議会を傍聴(神出病院事件)
- 9/11~17 決算議会に向けた局別レクチャー
- 9/18~10/28 9月決算議会
- 9/27 市政報告会(オンライン)



- [1] 今号のどの記事が興味深かったですか?
- [2] 分かりにくかった記事があればご指摘ください。
- [3] 今後とりあげてほしいテーマは?
- [4] 神戸市議、高橋ひでのりへのご意見をお願いします。

高橋ひでのり プロフィール

●1957年生まれ。●1984年京都大学を卒業後、神戸市役所に就職。生活保護ケースワーカーとして勤務。●1995年阪神淡路大震災時、避難者の生活保護受給のため奮闘。垂水区役所などで国保・年金業務を担当。●勤務と並行し一市民として平和・脱原発・差別撤廃などの市民運動に参加。●2011年 精神保健福祉士の資格を取り、精神障がい者の成年後見ボランティアに参加。●2017年3月、59歳で退職。●2019年4月神戸市会議員選挙(垂水区)に立候補し、4162票で初当選。つなぐ神戸市議員団の政調会長。●趣味はゴスペルと登山。



Facebook発信中

【発行】高橋ひでのりと市政を考える会

〒655-0894 神戸市垂水区川原2-1-16 谷本ビル202
TEL:070-7489-6715
(市政相談電話受付:月~金 9時~19時)
FAX:078-330-3562
Mail:takahashi.tarumiku@gmail.com
URL: https://www.shiminnokaze.com



このニュースは年に4回発行します。ニュースの郵送を希望される方は上記までご連絡ください。



つなぐ神戸市議員団
高橋ひでのり



No.13
高橋ひでのりと
市政を考える会
ニュース
2020年 冬号

新型 コロナ ウイルス 介護・障害入所施設 職員へのPCR検査がスタート

高橋の提案が実現!

これまで高橋は、介護・福祉・保育施設の利用者が新型コロナに感染すると重症化するので、利用者や職員の定期的なPCR検査を求めてきました。医師が必要と認めた時だけでなく、社会的必要から行う「社会的検査」です。健康局は当初認めていませんでしたが、国が条件付きで認めた8月に転換。11月下旬から、特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホーム、障害児・障害者入所施設については、職員(約1.1万人)を約3か月おきにPCR検査します。新規入所者も対象です。

高橋はさらに、学校や保育所に通う医療的ケアを必要とする子どもと職員も対象にするよう求めています。また高橋が透析医らと一緒に求めたコロナ専門病棟も、11月9日から中央市民病院の敷地内で診療を開始しました。



中央市民病院のコロナ専門病棟。エクモ(ECMO)と血液浄化装置が設置されている。(高橋撮影)

コロナとインフルエンザの同時流行に備えよう



コロナとインフルエンザの同時流行に備えるには、症状が出たらすぐに検査することが大切です。これまで高橋は「100カ所以上の発熱外来の設置」を求めてきましたが、神戸市は医師会と調整。11月2日現在で211の医療機関が「診療・医療検査機関」として指定されました。症状が出たらまず、かかりつけ医や近隣の医療機関に電話で相談してください。その医療機関で診察を受けられない場合でも、必ず近隣の医療機関を紹介してもらう仕組みになっています。神戸市医師会のドライブスルー検査もその一環です。

神出病院事件 ~精神病院での虐待をなくそう~

9月10日の福祉環境委員会で高橋は、神出病院事件について質疑。すでに患者虐待を行った6名の元看護師は有罪が確定していますが、裁判では、上司が率先して組織的に虐待していたことが明らかになっています。人の役に立とうと看護を志した者が、なぜ深刻な人権侵害を起こすのか、真相究明を高橋は求めてきました。

その結果健康局は、神出病院が設置する真相究明のための第三者委員会に外部の専門家や神戸市の参加を要求。また、入院患者全員を対象に、転院希望の聞き取り調査を兵庫県精神保健福祉士協会などの外部団体が行う予定です。さらに病院当局の監督責任を問うために神戸市は、院長の精神保健指定医資格の取り消しを国に求めています。



精神科特例

	一般病院	精神病院
医師の数	3人	1人
看護師の数	2人	2人

→ 3分の1 (医師) / → 3分の2 (看護師)

精神病院での人権侵害をなくすためには、法的な改善も必要です。10月27日神戸市会は、全議員の発議で、障害者虐待防止法の対象に医療機関を加えることを国に求める意見書を採択しました。

また神出病院の元看護師は、劣悪な労働条件と、重度の認知症患者が増え看護が大変になっていることが、組織的な虐待の原因と証言しています。(10月18日付神戸新聞記事)兵庫県精神障害者家族連合会が、精神科特例(一般病院に比べて医師は3分の1、看護師は3分の2でよいという配置基準)の廃止を求めて署名を集めています。高橋もこの取組みに賛同します。